

馬主だより

第 8 8 号

平成29年10月13日
発行 (一社)ばんえい競馬
馬主協会事務局

☆公正競馬目指して 関係者一人ひとり意識改革の取り組み続く！！

▼小春日和のうらかな季節、秋もより一層深まってまいりました。遠くに眺める山々のいただきは、うっすら雪化粧されています。もうすぐ冬の足音が聞こえてきそうな気配です！！▼さて、ばんえい競馬の方は、今年度開催も中盤戦を迎えております。発売額は堅調に推移し対前年比 131.48%、帯広競馬場の入場人員もこれまで前年度を上回っております。▼好成绩とは裏腹に、先月、ばんえい競馬で薬物陽性馬が発生。度重なる不祥事とあって関係者の間には衝撃が走りました。何故、不祥事は起こるのだろうか？その原因はどこにあるのだろうか？▼経営側と現場間の距離、リスクに対する感性の低さ、コミュニケーション不足、風通しの悪い環境、利己主義等々。▼不注意や怠慢から失敗や過ちは起こるものですが、では、同じ過ちを繰り返さないためには、どうすれば良いのでしょうか？▼抑えるポイントは、とにかく皆で決めたルールを守り、見過ごさない、見て見ぬふりをしない、自らが意識をして確認を徹底する。その行動を習慣化するまでこれを繰り返す。▼強い意志と活動しやすい環境作りのもと、上からの適切な指示と下の本気での対応の継続、そして、「何と言っても」関係者一人ひとりが問題意識を持って真剣に取り組むことこそが、解決の“真のカギ”である。

平成29年度 ばんえい競馬 発売成績 (累計)

開催76日間

帯広市ばんえい振興室資料提供
平成29年10月9日終了時

区 分	発 売 金 額							
	平成29年度			平成28年度		対 比		
	日 数	発売額	予算額	日 数	発売額	予算	前年	
帯広競馬場	76	672,958,100	618,584,800	76	704,935,700	108.79	95.46	
直 営 場 外	旭川北彩都	76	299,405,800	345,473,900	76	384,523,100	86.67	77.86
	ミトスポット北見	76	207,023,900	150,207,400	76	179,884,400	137.83	115.09
	ハロンス岩見沢	76	112,761,500	99,590,600	76	116,817,700	113.23	96.53
	ハロンス釧路	76	47,590,000	42,652,400	76	48,811,200	111.58	97.36
	ハロンス名寄	76	45,399,900	59,414,800	76	66,754,200	76.41	68.01
	アプスポット網走	76	33,006,000	20,384,600	76	28,111,100	161.92	117.41
	琴似駅前	76	66,617,000	65,700,200	76	71,996,100	101.40	92.53
	イルムふかがわ	76	41,546,700	35,987,100	76	45,780,700	115.45	90.75
電 話 投 票	オッズパーク	76	2,595,948,200	2,411,507,000	76	2,451,816,400	107.65	105.88
	OP(七重勝)	76	15,869,800	57,000,000	76	16,320,100	96.17	97.24
	OP(五重勝)	76	38,945,700		76	20,546,200		189.55
	競馬モール	76	2,539,207,100	2,152,275,200	76	2,128,640,300	117.98	119.29
	SPAT4	76	2,551,696,900	1,161,431,700	26	655,722,800	219.70	389.14
広域場間場外	—	694,057,700	555,427,100	—	656,103,900	124.96	105.78	
場外・電投計	—	9,289,076,200	7,157,052,000	—	6,871,898,200	129.79	135.17	
合 計		9,962,034,300	7,775,636,800		7,576,833,900	128.12	131.48	
1日平均	76	131,079,399	102,311,011	76	99,695,183	128.12	131.48	

平成29年度該当開催(ばんえい競馬第1回1日目～第13回6日目まで76日間)

平成28年度該当開催(ばんえい競馬第1回1日目～第13回6日目まで76日間)

情報・ご案内

○ 藤本匠騎手 前人未到4,000勝の大記録を達成！！

～ デビューから35年目 ばんえい史上初の偉業 ～

藤本匠騎手は、2017年8月26日(土)の第7競走でドントコイ号(牡4歳)に騎乗して優勝し、ばんえい史上初となる通算4,000勝の偉業を達成しました。

藤本騎手は、1983年4月に初騎乗。2012年9月には、「ミスターばんえい」と呼ばれた金山明彦騎手(現調教師)の持っていた当時の通算最多の3299勝を更新する3300勝を記録。その後も順調に勝ち星を重ね、今回、前人未到の大記録達成となりました。今後ともますますのご活躍をお祈りいたします！！

藤本 匠(ふじもと たくみ)騎手プロフィール ※2017年8月26日(土) 第7R終了時点			
生年月日	1962年2月9日(55歳)		
出身地	札幌市		
本年度成績	343戦 50勝		
通算成績	30,067戦 4,000勝(うち重賞 59勝)		
初騎乗	1983年4月29日(騎乗馬:ヨオテイトツブ号)		
初勝利	1983年4月29日(騎乗馬:キタノウルフ号)		
主な重賞優勝	<table style="width: 100%; border: none;"> <tr> <td style="width: 50%; vertical-align: top;"> 1992年 農林水産大臣賞典 1996年 ばんえいダービー 1999年 イレネー記念、 ばんえいオークス 2000年 帯広記念 2001年 ばんえいグランプリ 2002年 ばんえい記念 </td> <td style="width: 50%; vertical-align: top;"> 2006年 ばんえいグランプリ、 ばんえいダービー 2009年 ばんえいオークス 2010年 天馬賞 2012年 天馬賞 2016年 ばんえいダービー </td> </tr> </table>	1992年 農林水産大臣賞典 1996年 ばんえいダービー 1999年 イレネー記念、 ばんえいオークス 2000年 帯広記念 2001年 ばんえいグランプリ 2002年 ばんえい記念	2006年 ばんえいグランプリ、 ばんえいダービー 2009年 ばんえいオークス 2010年 天馬賞 2012年 天馬賞 2016年 ばんえいダービー
1992年 農林水産大臣賞典 1996年 ばんえいダービー 1999年 イレネー記念、 ばんえいオークス 2000年 帯広記念 2001年 ばんえいグランプリ 2002年 ばんえい記念	2006年 ばんえいグランプリ、 ばんえいダービー 2009年 ばんえいオークス 2010年 天馬賞 2012年 天馬賞 2016年 ばんえいダービー		

○【訃報】2015年「ばんえい記念」(BG1)覇者“キタノタイショウ”逝く

2017年に引退したキタノタイショウ号(牡・11歳)が、2017年8月21日(月)に北海道内の繋養先の牧場において死亡しました。

同馬は現役時代、2009年イレネー記念(BG1)、ばんえいダービー(BG1)、2011年天馬賞(BG1)など通算重賞12勝を挙げ、2015年では最高峰レース「ばんえい記念」(BG1)を優勝するなど、数多くの活躍をして人気を集めました。

今年の春に種牡馬となったばかりで、これから産駒が期待されておりましたが、誠に残念です。ご冥福をお祈り申し上げます。合掌

キタノタイショウ号のプロフィール													
生年月日	2006年5月2日												
引退年	2017年												
毛色 / 血統	栗毛 / 父 ダイヤキンショウ 母 優奈(母父 タカラフジ)												
生涯成績	221戦45勝(うち重賞12勝)												
主な重賞優勝	<table style="width: 100%; border: none;"> <tr> <td style="width: 50%;">2009年 イレネー記念</td> <td style="width: 50%;">2013年 ばんえい十勝OP杯</td> </tr> <tr> <td>2009年 ばんえい菊花賞</td> <td>2013年 旭川記念</td> </tr> <tr> <td>2009年 ばんえいダービー</td> <td>2014年 チャンピオンカップ</td> </tr> <tr> <td>2010年 銀河賞</td> <td>2014年 ばんえい十勝OP杯</td> </tr> <tr> <td>2011年 天馬賞</td> <td>2015年 ばんえい記念</td> </tr> <tr> <td>2012年 北斗賞</td> <td>2015年 北見記念</td> </tr> </table>	2009年 イレネー記念	2013年 ばんえい十勝OP杯	2009年 ばんえい菊花賞	2013年 旭川記念	2009年 ばんえいダービー	2014年 チャンピオンカップ	2010年 銀河賞	2014年 ばんえい十勝OP杯	2011年 天馬賞	2015年 ばんえい記念	2012年 北斗賞	2015年 北見記念
2009年 イレネー記念	2013年 ばんえい十勝OP杯												
2009年 ばんえい菊花賞	2013年 旭川記念												
2009年 ばんえいダービー	2014年 チャンピオンカップ												
2010年 銀河賞	2014年 ばんえい十勝OP杯												
2011年 天馬賞	2015年 ばんえい記念												
2012年 北斗賞	2015年 北見記念												

○ 北海道知事より公益目的支出計画の実施完了の確認書を受領！！

～ 一般社団法人移行に関するすべての手続き完了する ～

当協会は、一般社団法人移行後の対応として、公益目的財産額を確定し、平成24年度より公益目的支出計画に基づき、公益のための事業を実施し、今般、計画どおり平成29年3月31日を以って計画の実施を完了するとともに、本年5月に開催されました当協会第22回通常総会の決議を経て、平成29年5月29日付け北海道に完了した事の確認を請求したところであります。

これに対して、平成29年9月19日付け法人第1738号により北海道知事より、一般社団法人及び一般財団法人に関する法律及び公益財団法人及び公益財団法人の認定等に関する法律の施行に伴う関係法令の整備に関する法律(平成18年法律第50条)第124条の規定に基づき、平成29年3月31日を以って、公益目的支出計画の実施完了の確認書を受領し、一般社団法人移行に関するすべての手続きを完了しましたのでご報告いたします。

○ 村上慎一調教師 通算1,000勝達成！！

～ばんえい歴代19人目 現役では14人目！～

村上慎一調教師は、2017年9月24日(日)の第1競走で自身が管理するソラチノジョオ一号が優勝し、通算1,000勝を達成しました。

ばんえい競馬調教師の1,000勝達成は、歴代19人目(現役14人目)で、調教師開業15年目での記録達成となりました。おめでとうございます！！

村上 慎一(むらかみ しんいち)調教師プロフィール	
※2017年9月24日(日)第1R終了時点	
生年月日	1971年6月24日(46歳)
出身地	北海道足寄郡足寄町
調教師デビュー	2003年4月19日(管理馬:マルアヒヤマキング号)
調教師初勝利	2003年4月21日(管理馬:ハシレアキオ一号)

調教師通算成績	8,111 戦 1,000 勝(うち重勝 18 勝)
主な重賞優勝 (BG1)	2007 年 イレネー記念(管理馬:カネサリュウ号) 2011 年 ばんえいグランプリ(管理馬:ニシキダイジン号) 2012 年 イレネー記念(管理馬:ニシキエーカン号) 2012 年 ばんえい記念(管理馬:ニシキダイジン号) 2016 年 ばんえいオックス(管理馬:ホクトノホシ号)

○ アスポット網走場外発売所 “J-PLACE網走”

～10月7日からJRA勝馬投票券の発売を5レースに拡大！！～

帯広市は、J-PLACE 網走(アスポット網走)における、JRA勝馬投票券の発売を、全場の後3レース(第10レースから第12レース)のみ実施してまいりましたが、このたび、10月7日(土)からは、これまでより2レース増となる、全場の第8レースから第12レースまでの5レースに拡大して発売を実施することになりました。

【拡大発売開始日】平成29年10月7日(土曜日)

【レース拡大内容】

変更後 全日、全場の第8レースから第12レース

↑

変更前 全日、全場の後3レース(第10レースから第12レース)

○ ばんえい競馬における禁止薬物陽性馬の発生

～該当馬1頭が失格となり 30日間の出走停止処分に！～

9月16日(土)にばんえい競馬で出走した競走馬から禁止薬物の「テオフィリン」が検出され、帯広市は、当該馬を失格とし30日間の出走停止処分としました。

また、競馬法違反の疑いがあるとして、帯広警察署に通報するとともに、現在、ばんえい競馬内部に調査チームを設置して原因究明を進める方針です。

帯広市によると、馬はメモリアルサマー号(牝6歳、岡田定一厩舎所属)で16日の第7競走2着となり、競走馬理化学研究所の検査で陽性反応が検出され、薬物陽性馬の発生が報告された。

テオフィリンは、気管支拡張や心筋興奮の作用がある薬物で、ぜんそくや気管支炎の治療などで処方されますが、この馬に治療歴はないという。カカオや緑茶、コーヒーなどにも成分として含まれますが、今回の検査ではカフェインの検出はなかった。

また、市は事案発生の報告を受け、同厩舎の他の馬14頭についても禁止薬物の陰性を確認するまで、公正確保のために出走禁止とした。注1

ばんえい競馬で禁止薬物の陽性が確認されたのは2007年12月以来。この時は2頭からカフェインが検出され、調査で無許可の飼料添加物が与えられた疑いが濃厚とされたが、具体的な原因は特定できなかった。

関係者一丸となり公正確保への取組を行っている最中、再び競馬の公正を害する事案が発生した事は誠に遺憾であります。原因はどうあっても、ばんえい競馬ファンはもとより世間のイメージからすれば、度重なる不祥事案に失望の念を禁じえないというのが、一般的な見方ではないでしょうか。

再発防止に向けた取り組みは道半ばではありますが、改めて関係者一人ひとりが自覚と責任を持って、更に公正確保の認識を高める必要があります。

馬主としては、率先し常に襟を正して行動することが望まれます。

是非、今一度別紙「馬主としての公正確保への取り組み」をご確認いただき、実践されますようご協力をお願いいたします。

注1：14頭のうち退厩している1頭を除く13頭について、(公財)競走馬理化学研究所において理化学検査を実施したところいずれも陰性という結果でした。

この結果、当該13頭については、第13回ばんえい競馬(平成29年9月30日)以降のレースに出走が可能となっています。

なお、現在退厩している1頭については、入厩後に理化学検査を実施し、陰性との検査結果を確認してからレースへ出走が可能となる予定です。

○ 馬登録申請日程 地方競馬全国協会より示される！！

～平成29年11月1日(水)から随時申請受付開始～

今年度の馬登録申請日程について、地方競馬全国協会より次のとおり示されましたのでお知らせいたします。

申請に関する詳細については、別紙「馬登録申請について」をご確認ください。また、検査日程については、後日調教師を通じてお知らせいたします。

なお、当該申請については、必ず預託予定の調教師を通じて必要書類等を添えて、下記の申請場所までご提出ください。特に譲渡を証明する書類については、必ず忘れずに！！

【申請月日】 平成29年11月1日(水)～平成30年2月28日(水)

注：第1回能力検査に出走するためには、2月末日までの申請書提出が必要です。

【申請場所】 帯広競馬場 地全協駐在員詰所(発走員室 駐在員勤務日)

【登録手数料】 一頭につき2,000円

馬登録申請に関するお問い合わせ

0155-34-0825(帯広競馬場代表)

地方競馬全国協会 駐在員 上利 敏野

注：駐在員の勤務日は別途競馬場に掲示しています。申請に際しては、あらかじめ調教師にご確認ください。

○ 11月9日(木) 十勝当才馬展示会 今年も音更町で開催！！

～お誘い合わせのうえ、多数のご来場お待ち申し上げます～

平成29年11月9日(木)十勝農協連家畜共進会場(音更町)において、十勝当才馬展示会が今年も開催されます。十勝管内における純系馬の改良と生産意欲を高めることが目的ですが、例年、当該会場において、当才馬の取り引きも行われているようです。

是非、この機会に会員各位の“御目に適う”将来の競走馬を探されてみてはいかがでしょうか。詳細は、別途ちらしをご参照ください。多数ご来場お待ちしております。

レース情報

○ 重賞競走の結果

月 日	重 賞 名	馬 名	馬 主	調教師
8 月 27 日	第 29 回 はまなす賞	ミノルシャープ	高山 稔	大友 栄人
9 月 17 日	第 53 回 岩見沢記念	オレノココロ	大森 勝廣	槻館 重人
9 月 24 日	第 25 回 銀河賞	マルミゴウカイ	宮本 康弘	槻館 重人

優勝おめでとうございます！！

◆ 第 29 回はまなす賞（3・4歳オープン）

8月27日(日)は重賞・はまなす賞(3、4歳オープン)が行われ、単勝2番人気、3歳馬の**ミノルシャープ**が優勝。ばんえい大賞典こそ4着でしたが、今シーズンここまで【8・1・0・1】だった好調ぶりを誇示し、初の重賞タイトルを手にしました。

人気の中心は、柏林賞制覇を含めて4連勝中のマルミゴウカイ。昨年の3歳二冠馬が力を見せつけるのか、注目を集めました。2番人気は充実ぶりを示す3歳馬**ミノルシャープ**で、**コウシュハサマー**が3番人気。単勝ひと桁台はこの3頭で、3つどもえの様相でレースを迎えました。

馬場水分は1.2%と、若干力の要る状態。各馬一斉にゲートを飛び出し、第1障害を難なく突破。その後はツルイテンリュウが若干置かれ加減となるも、他馬は砂煙を巻き上げながら横一線に進み、そのままの態勢で第2障害を迎えました。

最初に仕掛けたのはフウジンライデンで、ジェイワンも即座に反応。ミノルシャープ、コウシュハサマー、そしてマルミゴウカイも続きます。なかでもミノルシャープが切れのある登坂を見せ、先頭でクリア。コウシュハサマーも差なく突破します。マルミゴウカイが3番手クリアを果たし、人気上位3頭が先行。最初に動いたフウジンライデンも圏内で障害を下りていきました。

しかし上位3頭の脚いろは、いずれも軽快。その差はほとんど変わらず、残り10メートル標識を通過。ゴール寸前でコウシュハサマーがわずかに差を詰めましたが、結局は1秒4差で**ミノルシャープ**が逃げ切って勝利しました。コウシュハサマーから4秒6差の3着にはマルミゴウカイが入り、人気サイドでの決着となりました。

ミノルシャープはこれが重賞初制覇。今シーズンはばんえい大賞典で4着に敗れた以外はすべて連対と、高いレベルで安定したレースを見せています。残る3歳二冠は11月5日のばんえい菊花賞、12月24日のばんえいダービーと少し先ですが、成長を遂げた今なら二冠奪取の可能性も十分でしょう。

◆ 第 53 回岩見沢記念（3歳以上オープン）

9月17日(日)は重賞・岩見沢記念(3歳以上オープン)が行われ、単勝1番人気の**オレノココロ**が優勝。旭川記念に続く今シーズン2度目、通算15度目の重賞制覇を果たしました。

7 頭立てとなったものの、上位勢は力が拮抗。1 番人気はばんえい記念馬オレノココロで、堅実なコウシュハウンカイが差のない 2 番人気。復調気配を示しているフジダイビクトリーも 3.6 倍で続き、この 3 頭による三つどもえの戦前評価となりました。これに割って入る馬が現れるか、馬場水分 1.5%のなかスタートが切られました。

さすがに歴戦のオープン馬だけあって、800 キロオーバーの重量でも第 1 障害を難なく突破。わずかにフジダイビクトリーが前に出るも、極端に遅れる馬はなく、横一線の攻防を繰り広げます。サクラリュウ、オレノココロ、フジダイビクトリーが代わるがわる先頭に立つような展開で第 2 障害を迎えました。

最初に動いたのはサクラリュウとフジダイビクトリー。これに呼応してコウシュハウンカイも登坂を開始します。オレノココロもスムーズに天板まで駆け上がり、この 4 頭が一団となって第 2 障害を突破しました。

残り 30 メートル地点で敢然と抜け出したのはコウシュハウンカイ。重賞での 3 連続 2 着にピリオドを打つべく、懸命に脚を伸ばします。しかし、オレノココロとサクラリュウが食い下がり、この 3 頭が並んだまま残り 20 メートル。激しい追い比べは残り 10 メートルを切っても続きましたが、ここで前に出たのはオレノココロ。持ち前の末脚を誇示し、1 馬身ほど抜け出て先頭ゴールを果たしました。しぶとい粘りを発揮したコウシュハウンカイでしたが、ゴール手前で失速。サクラリュウがこれをかわして 2 着となりました。

障害をスムーズに越えられれば、やはりオレノココロの勝ちパターン。コウシュハウンカイには最後まで粘られましたが、レースぶりには余裕さえ感じられました。今後は高重量戦が増えてくるだけに、よりこの馬の持ち味が発揮できそう。引き続き要注目の存在です。

2 着のサクラリュウは重賞勝ちこそありませんが、オープン戦線で堅実な走りを見せています。昨年もこの時期から成績が上向いており、今後も重賞での好勝負が期待できそうです。

◆ 第 25 回銀河賞（4 歳オープン）

9 月 24 日(日)は重賞・銀河賞(4 歳オープン)が行われ、単勝 1 番人気の**マルミゴウカイ**が優勝。昨年の 3 歳二冠馬、そして今年の柏林賞も制している実力馬が、トップハンデをものともせず重賞 4 勝目を挙げました。

実績上位のマルミゴウカイが、トップハンデ 750 キロながら圧倒的な 1 番人気。離れた 2 番人気にイレネー記念馬のフウジンライデンで、柏林賞 2 着のホクショウディーブが差のない 3 番人気で続きます。単勝ひと桁台はこの 3 頭でしたが、オッズが示すとおり、戦前評価は歴然。マルミゴウカイが強さを見せつけるのか、それともハンデ差を味方に台頭する馬が現れるか、注目を集めました。

馬場水分 1.8%、昼間開催のため太陽光が残るなかでのスタートとなりました。道中はフナノクンが大逃げを打ち、他馬は様子を見ながらの追走。極端に遅れる馬もなく、フナノクンと、その他 8 頭の集団に分かれてレースを進めました。ひとあし先に障害下にたどり着いたフナノクンが息を整える間に、8 頭もぞくぞくと勝負どころに到着しました。

各馬がそろい切るタイミングで、フナノクンが登坂を開始。他馬はその様子をうかがっていましたが、天板付近で脚を止めたところでツルイテンリュウとフウジンライデン、マルミゴウカイが動きます。一度は迫られたフナノクンでしたが、二の腰を入れて障害を突破。他馬に先駆けて最後の平坦路に歩を進めました。やや離れた 2 番手でマルミゴウカイ、フウジンライデンがクリアし、コウシュハローヤル、ツルイテンリュウ、プレゼントウェー、ホクショウディーブも差なく障害を下りていきました。

積極的に運んだフナノクンは残り 30 メートルで脚いろが鈍り、軽快な脚どりでマルミゴウカイが先頭を奪取。これを追うのはツルイテンリュウで、フウジンライデンもじわじわと脚を伸ばします。さらに、その外から豪快に伸びてきたのがホクショウディーブで、2 番手争いは熾烈を極めます。その一方、先頭のマルミゴウカイは後続との差を保ったまま、残り 10 メートル標識を通過。トップハンデながら他馬と同様の脚どりを見せ、トップで荷物を運び切りました。注

目は2着争い。懸命に粘るツルイテンリュウと、外を伸びたホクショウディーブはほぼ同時にゴール線を通りましたが、わずかに0秒2差だけ、ホクショウディーブが先着しました。

終わってみれば、マルミゴウカイが実績どおりに完勝。2着のホクショウディーブとは20キロ、3着のツルイテンリュウとは30キロのハンデ差があっただけに、見た目以上の強さを発揮したレース内容だったといえます。これで柏林賞に続く4歳二冠を制し、当然1月の天馬賞でも最有力候補。今後も目が離せない存在です。

ホクショウディーブは柏林賞と同様にマルミゴウカイの2着。勝ち馬以外と比べれば10キロ以上、余計に積まれていただけに、世代上位の力は示した格好です。これだけの力があれば、いつかはチャンスが巡ってくるはずで、引き続き好勝負が期待できそうです。

※レース情報の内容につきましては、ばんえい競馬情報局より抜粋しています。